

一橋大学150周年と 12月クラブホームページ

高橋治夫
(48送)

「12月クラブのホームページ（以下DCHP）」の管理者山崎坦さんは今年数えて98歳、16年間休むことなく毎月月末にHPを更新している。「12月クラブ」とは昭和16年学部後期卒業生の年度会の名称で、今年は卒業75周年を迎える。昭和16年は12月8日に太平洋戦争が始まり、翌年3月卒業予定が12月27日に繰り上げ卒業し兵役に服すこととなった異例の年である。戦死者36名を数える、と聞く。このHPは卒業60周年記念事業として平成12年に立ち上げられた。HPを作った年次とし

てはダントツに早い。学年会でHPを作っているのは昭和33年卒まで17年飛ばなければならない。

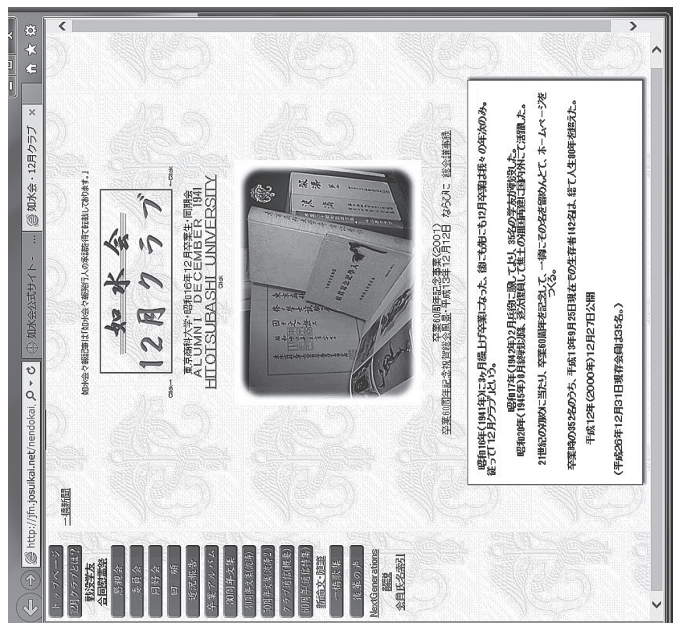
さて、古いこと以上に重要なのはその中身である。12月クラブ会員352名夫々の歴史がこの中に刻まれている。「12月クラブ」は、昭和46年に卒業30年記念文集を作ったが、この文集をHPに取り込んだ。卒業から30年、戦中の体験談、戦後間もなくの混乱期、そして「もはや戦後ではない」といわれた時期を振り返ってみると、なるほどそうであったか、と歴史を再認識する。卒業40周年、50周年、60周年と区切り目ごとに記念文集が作られ、HPに収められている。総頁2353頁の文集は、一人ひとりの半世紀を超える個人史であり、個人の視点から捉えた戦中・戦後史である。

昨年3月に一橋大学創立150年史

準備室ニューズレター1号が発表された。江夏由樹名誉教授はその中で「一橋大学は1975（昭和50）年に創立100周年を迎えた。その記念事業として、大学は年譜、学制史資料、学問史、座談会記録等の編纂・刊行を相次いで行った。また、如水会学園史刊行委員会の手によっても、一連の学園史資料の刊行が積極的に行われた」とある。私がこれを読んだ時に直ぐに頭に浮かんだのはDCHPである。DCHPは実に充実した内容を含んでいる。2025年の創立150年記念事業の中にこの価値あるデジタル・アーカイブをどのように組み込んでゆくことができるであろうか。

創立100周年記念の「学問史」の巻頭言で宮澤健一学長は次のように書いている。「学問史という形で過去と伝統を顧みることの意義は、それをこ

うした将来への展望に、現在というわれわれの時点で、つないでみせることである。形成か、模索か、胎動か、その差はあるにせよ、ここに展開される一橋学問の点検と吟味によって、明日への方向性が示されていることを期待したい」



山崎さんに連絡を取って、『如水会々報』に一文を掲載したいと申し込んだところ、以下のメッセージを頂いた。

「60周年の記念文集には80名が執筆しました。その前年にはHPを公開することができて、世界どこからでも時を移さずクラブの活動を見ることができ

るようになりました。今や卒業75年になりますが352名の会員はHP『合同慰霊祭』項に収録されるように年々他界されて残存会員は20名ほどとなり、水田洋君のように元気に毎月学士院会に出席される方は珍しく、HP委員は私独りとなりました。クラスメイトも私独りです。そして水田君も私も来年は白寿なのです。最近のHPの更新は、「特

別目次』劈頭に新井先輩（12学）主催の「一橋の学問を考える会」の記録全文を収録しました。40数名の教授の御専門の学問に関する60余回にわたる講演の貴重な全記録です。「Campusの四季」（如水会々報より）は懐かしい。戦前の時代背景としては「映画座談」を試みました。貴重な三浦新七先生の『文明史特別講義』ノートは故中路信君（32継）が提供してくれました。最近の世相を見るにつけ、こどもの教育が大切と痛感しております。「戦前の教育」を記述し、最近では毎月戦前の「尋常小学校修身教科書」を1巻ずつ収録して見ております」

是非、この「如水会・12月クラブ」HPにアクセスして、現代史、自分史と重ねてみていただきたい。

(如水会 元業務部長)